

対話（ダイアログ）



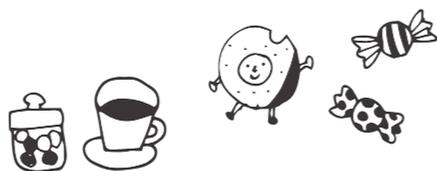
相手を否定しない

それは、この場で自分も否定されないということ。違う意見と出会った時、いやでも口では「それもあるよね」と言って耳を傾けてみます。仲間も自分の意見に耳を傾けてくれます。「違い」は素敵な財産。たくさんの意見が並んだとき、その中から新たに浮かび上がるものがきっとあります。

カフェ的対話が未来をつくる

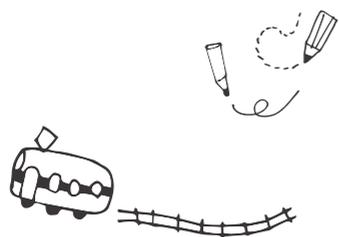
リラックスしたときに本当に話したいことやアイデアって浮かぶもの。決して80人の前で意見を言っているときに未来の良いアイデアが浮かぶわけではありません。

WORLD CAFE



落書き

テーブルクロスは模造紙。発言や浮かんだキーワードを書いてもいいし、イラストや地図を描いてもいいし、使い方は無限大。遊び心をもって対話の足あとを沢山残しましょう。あとからやって来た仲間がそれを見て「これはもしやあの事では」と、話はふくらんでいきます。



テーブルを旅する

1人のホストを残して4人は他のテーブルへ旅に出ます。たどり着いたテーブルでは5人がそれぞれ5人分の意見を紹介するので25人分の意見が集合。もう一度旅するとそこには125人分の意見が入っています。



2・4・8バズセッション

スピノフ企画やコラボレーション企画の対話の場などで利用した、ファシリテーターが居なくてもセルフサービスで出来る対話手法。参加者がまず2人組になって、自己紹介から対話スタート。次に隣の組と結合し4人で対話、さらに結合して8人で対話。グループの代表者が全体へ報告をします。その後4人、2人とまた分かれて対話を整理したりも。



OST（オープンスペーステクノロジー）

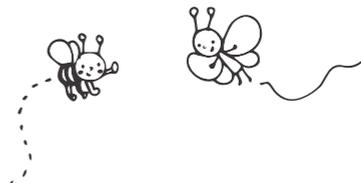


それは始まるべきときに始まる

勇気ある仲間が、全員の輪の中でテーマを書いた紙を掲げ仲間を募ります。それぞれの分科会に参加してくれた仲間は誰でも適切な存在。いつ始まるうとその時が正しい時。何が起きててもそれが起こりうるべき唯一の事。いつ終わろうと、終わった時が終わりである。この原則にみちびかれて、未来会議から多くのプロジェクトが芽を出し始めています。

チョウとハチ

なんだか入りたい分科会がないので、ふらっと飲み物テーブルや掲示板へ。そこに来た仲間同士で、意外と話が盛り上がるかも。花畑を舞うチョウみたいに。興味を持って参加したけど、ちょっと違ったみたい。そんな時は次の分科会に移動。その輪に前の分科会の内容を運んであげましょう。花粉を運ぶハチみたいに。



ハーベスト（収穫）

対話の締めくくりに、全体セッションをします。

イブニングニュース

対話のなかで印象に残ったことや、感じたこと、閃いたこと、思い出したことなどを、ニュースとしてみんなに提供。



モンスター・スティッキー・ウォール（巨大な付せん紙の壁）



印象に残った言葉や意見などをポストイットに書いて壁一面に貼り付け。内容により場所を変えるなどして整理。今回の対話に参加したそれぞれの思いを分け合います。

ファシリテーショングラフィック（ファシグラ）

ファシリテーターが対話のなかの発言やキーワードを、参加者が見えるように模造紙などに記録。図式化して描き出します。これらには集まった全員の意見と知恵がぎっしり詰っています。

< 浜通りスタイルの対話の場 >

「カフェ的対話」もカッコイイけど、家族や茶飲み友達と煎餅や漬物を囲んでお茶を飲むときのリラックス感には負けちゃうと思う。休み時間にひらめきはやってくる。未来会議の対話の場でも、硬い会議然とはならない、どこかほっと出来る雰囲気を作っておきたいなと思ってます。

